

## 喫煙対策の基礎知識 その8

### 「非感染性疾患」

産業医科大学 名誉教授 大和 浩

糖尿病や高血圧は、かつて、「成人病」と呼ばれていました。40～50代で発症する病気ではなく、若年者でも喫煙や運動不足などによって発症することの注意を喚起するため、1996年、「生活習慣病」と名称が変わりました。さらに、マラリアなどの伝染病以外のがんや心臓・脳血管疾患は個人の生活習慣だけでなく、その人の職場環境や社会制度にかかわることを意味する「非感染性疾患（NCDs：Non-Communicable Diseases）」が2012年から使われるようになり、新聞等でも目にするようになってきました。

1号館と研究所の間の藤棚の下に喫煙コーナーがあった頃、医師を含む男性教職員の喫煙率は19～20%から下がりましたが、2008年4月、敷地内禁煙になり、一時的に喫煙者が東門の外に溢れましたが、4年後の喫煙率は10%に半減しました。職場を喫煙しにくい環境にすることで、喫煙率が下がり、タバコ関連疾患を減らすことができます。喫煙対策は典型的な「非感染性疾患」対策なのです。

